



CHAPTER 8

Cisco IME クライアント コール アクティビティ レポートの生成

Cisco Serviceability Reporter サービスは、Performance Protection Report など、Cisco Unified サービスアビリティ で日次レポートを生成します。各レポートは概要情報を提供し、その概要情報はその特定レポート用の統計を表示する各種グラフで構成されます。Reporter は、ログに記録された情報に基づき、1日に1回レポートを生成します。Cisco Unified サービスアビリティ で [ツール(Tools)] メニューから、Reporter が生成するレポートにアクセスできます。各概要レポートは、その特定レポート用の統計を表示する各種グラフにより構成されます。サービスをアクティブ化した後、レポートが生成されるまで最大で24時間かかる場合があります。Cisco Unified Communications Manager クラスタ構成の場合、Reporter でクラスタ内の各サーバのデータが個別に表示されます。

Performance Protection Report は、最近1週間のデフォルト モニタリング オブジェクトの傾向分析情報を提供し、これにより、Cisco Intercompany Media Engine に関する情報を追跡できます。

Performance Protection Report には、Cisco IME クライアントの合計コール数とフォールバック コール数の比率を示す Cisco IME Client Call Activity グラフが含まれます。このグラフは2つの線で構成され、一方の線が、試行された Cisco IME コールと最近1時間以内に完了した1時間あたりのコールの数を示し、もう一方の線が、現在の時間中および前の時間中に PSTN にフォールバックされた Cisco IME コールの比率を示します。データが存在しない場合、Reporter ではグラフの下部に水平な線が生成されます。

表 8-1 は、Cisco Unified Communications Manager サーバで Cisco Serviceability Reporter サービスを設定するための 設定チェックリストです。



(注) Cisco Serviceability Reporter の詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

表 8-1 サービスアビリティ レポートのアーカイブの設定チェックリスト

設定手順	関連する手順と項目
ステップ 1 Cisco Serviceability Reporter サービスをアクティブ化します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール(Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] の順に選択します。 [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。 2. [サーバ(Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、サービスをアクティブ化する対象のサーバを選択し、[移動(Go)] をクリックします。Cisco Unified Communications Manager クラスタ構成の場合、1 番目のノードを選択します。 3. [Cisco Serviceability Reporter] チェックボックスをオンにし、[保存 (Save)] をクリックします。
ステップ 2 Cisco Serviceability Reporter サービスのパラメータを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [システム(System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。 2. [サーバ(Server)] ドロップダウン リスト ボックスで、サーバを選択します。Cisco Unified Communications Manager クラスタ構成の場合、1 番目のノードを選択します。 3. [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Serviceability Reporter] サービスを選択します。 4. パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符ボタンをクリックします。特定のパラメータをリストの上部に表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでそのパラメータをクリックします。 5. 該当するパラメータ値を更新します。サービスのこのインスタンスのサービス パラメータをすべてデフォルト値に設定するには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックします。 6. [保存 (Save)] をクリックします。

表 8-1 サービスアビリティ レポートのアーカイブの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連する手順と項目
<p>ステップ 3 Cisco Serviceability Reporter サービスが生成したレポートを表示します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール(Tools)] > [サービスアビリティレポートのアーカイブ(Serviceability Reports Archive)] の順に選択します。 [サービスアビリティレポートのアーカイブ(Serviceability Reports Archive)] ウィンドウに、レポートを使用できる対象の月と年が表示されます。 2. [月-年(Month-Year)] ペインで、レポートを表示する対象の月と年を選択します。 月に対応する日のリストが表示されます。 3. レポートを表示するには、レポートが生成された対象の日に対応するリンクをクリックします。 選択した日のレポート ファイルが表示されます。 4. 特定の PDF レポートを表示するには、表示するレポートのリンクをクリックします。 <p>サーバ名を使用して Cisco Unified サービスアビリティを参照する場合、レポートを表示する前に、Cisco Unified サービスアビリティ にログインする必要があります。</p> <p>ご使用のネットワークで Network Address Translation (NAT; ネットワーク アドレス変換) を使用していて、NAT 内のサービスアビリティ レポートにアクセスする場合、NAT に関連付けられているプライベート ネットワークの IP アドレスを、ブラウザの URL フィールドに入力します。NAT 外のレポートにアクセスする場合、パブリック IP アドレスを入力します。この場合、NAT により対応するプライベート IP アドレスに変換またはマップされます。</p> <p>PDF レポートを表示するには、ご使用のマシンに Acrobat ® Reader をインストールする必要があります。Acrobat Reader をダウンロードするには、[サービスアビリティレポートのアーカイブ(Serviceability Reports Archive)] ウィンドウの下部にあるリンクをクリックします。ウィンドウが開き、選択したレポートの PDF ファイルが表示されます。</p>

図 8-1 に、Cisco IME クライアント コール アクティビティ レポートの例を示します。

図 8-1 Cisco IME クライアント コール アクティビティ レポート

